

多めに入れると吸水性低下

～柔軟剤のテスト～

洗濯のとき、多くの家庭で柔軟剤が使用されていますが、柔らかな風合いを得る一方で、吸水性が下がるというデメリットもあります。しかし最近、「吸水性にも優れる」ことを強調した柔軟剤も登場しています。そこで、現在市販されている柔軟剤の吸水性や柔軟性を調べてみました。



テスト品目

- 吸水性に優れる旨うたっている銘柄（以下、「吸水タイプ」）…3銘柄（No1～3）
- 吸水性に関する記載がない銘柄（以下、従来タイプ）…10銘柄（No4～13）

テスト結果

日本石鹼洗剤工業会が2010年に行った調査では、約3割の消費者が「柔軟剤を使用量の目安より多めに入れる」と回答していることから、パッケージにある標準使用量と2倍量でテストしてみました。

○吸水性

柔軟剤処理を行ったフェイスタオル（綿100%）の下端を水に浸し、10分後に吸い上げた水の高さを測定しました。

標準使用量では、未処理タオル130mmと比較するといずれの銘柄も吸水性は低い結果

となりました。吸水タイプは76～100mm、平均87mm、従来タイプは33～105mm、平均66mmでした。従来タイプでは銘柄によるばらつきが多く、最大と最小の差は72mmでした。吸水タイプはばらつきは少なく、いずれの銘柄も70mm以上の吸水性が認められました。

2倍量では、吸水タイプは32～38mm、平均35mm、従来タイプは9～40mm、平均26mmでした。平均値で比較すると吸水タイプが若干高い結果でした。

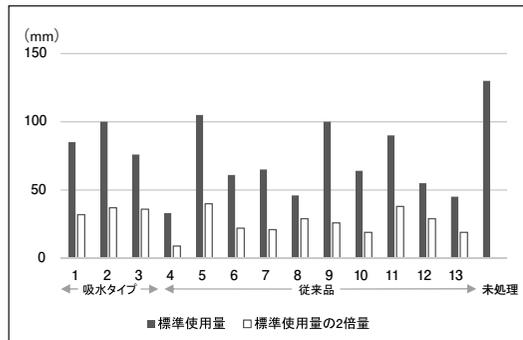
使用量を2倍にすると、吸水タイプ、従来タイプいずれの銘柄も著しく吸水性が減少しました。過剰に吸着した柔軟成分が繊維表面の水を弾いたためと思われます。

（グラフ1参照）

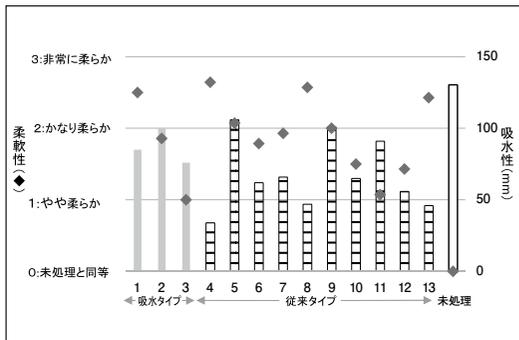
○柔軟性

男女14名（20～60代）のモニターが、実

グラフ1 吸水性



グラフ2 吸水性と柔軟性



●テスト品一覧とテスト結果

タイプ	No.	商品名	購入価格 (円)	正味量 (ml)	使用量の目安 (抜粋)	表示者名 及び連絡先	吸水性 (mm)		柔軟性 評点の平均 [※]
							標準使用量	2倍量	
吸水タイプ	1	new ハミング	203	600	30ml / 55L (洗濯物量の目安 4.5kg)	花王株式会社	85	32	2.5
	2	しわスッキリ ソフラン	429	720	30ml / 60L (洗濯物量の目安 4.5kg)	ライオン株式会社	100	38	1.9
	3	ファーファ吸水力に優れた柔軟剤	375	570	30ml / 55L (洗濯物量の目安 4.5kg)	NSファーファジャパン株式会社	76	36	1.0
従来タイプ	4	ハミング	306	2,500	60ml / 60L (洗濯物量の目安 4.5kg)	花王株式会社	33	9	2.6
	5	ハミングneo	257	400	12ml / 55L (洗濯物量の目安 4.5kg)		105	40	2.1
	6	フレア フレグランス	307	570	30ml / 55L (洗濯物量の目安 4.5kg)		61	22	1.8
	7	ソフラン アロマリッチ	306	620	30ml / 55L (洗濯物量の目安 4.5kg)	ライオン株式会社	65	27	1.9
	8	ソフラン アロマナチュラル	306	650	30ml / 55L (洗濯物量の目安 4.5kg)		47	29	2.6
	9	さらさ柔軟剤	410	600	30ml / 55L (洗濯物量の目安 4～6kg)	プロクター・アンド・ギャンブル・ジャパン株式会社	100	26	2.0
	10	レノアプラス	203	480	30ml / 55L (洗濯物量の目安 4～6kg)		64	20	1.5
	11	ファーファ 柔軟仕上げ剤	266	2,000	60ml / 60L (洗濯物量の目安 4.5kg)	NSファーファジャパン株式会社	90	38	1.1
	12	ファーファ ファインフレグランス	802	600	30ml / 55L (洗濯物量の目安 4.5kg)		55	29	1.4
	13	ダウニー	615	1,890	90ml / 65L (洗濯物量の目安 6.0kg)	株式会社シービック	45	19	2.4

※評点…3：非常に柔らかい 2：かなり柔らかい 1：やや柔らかい 0：未処理と同等 -1：未処理の方が柔らかい

際に触って官能評価しました。

標準使用量の場合、いずれの銘柄も未処理のタオルよりも柔軟性が認められました。柔軟度合については、吸水タイプ、従来タイプいずれも評価にばらつきがありました。

2倍量の場合、いずれの銘柄も8割以上のモニターが標準使用量と「同等」と答えており、柔軟性の著しい向上は見られませんでした。

従来、柔軟性と吸水性は相反する性質とされていますが吸水性と柔軟性が伴う銘柄が従来品の中にもありました。(グラフ2参照)

まとめ

- 吸水性は、平均値で比較すると吸水タイプが従来タイプより高かったが、従来タイプでも吸水性がよい銘柄もありました。
- 未処理のタオルと比較して、いずれの銘柄も柔軟性が認められました。

• 使用量を2倍にしても柔軟性の向上はなく、吸水性が減少しました。

• 柔軟性と吸水性は相反する性質とされていましたが、吸水性と柔軟性が伴う銘柄は、吸水、従来タイプいずれにもあり、明確な相関性は認められませんでした。

消費者へのアドバイス

新しい製法や技術により、吸水性に優れ、柔軟性も兼ね備えた商品も販売されています。テストの結果から、パッケージにある使用量を多くしても柔軟性の効果が上がらないことが分かりました。逆に多めに使うと吸水性が大きく下がるほか、洗濯液中の汚れを吸着して再汚染が起こることも指摘されています。さらに、香りの強さで気分が悪くなる事例も報告されています。適正な使用量を心がけましょう。